

ヨコハマ市民まち普請事業 整備事例集 vol.2

ふ-しん【普請】「普く請う(あまねくこう)」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民のみなさんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足感を高めることに繋がっていきます。「まち普請」には、市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

ヨコハマ市民まち普請事業 整備事例集 vol.2 (平成19年度 整備事例集)

- 発行 平成20年10月
横浜市都市整備局都市づくり部地域まちづくり課
〒231-0017 横浜市中区港町1-1 TEL 045-671-2696 FAX 045-663-8641
- 編集 横浜市市民活動支援センター運営委員会
- デザイン 有限会社 USC 街・空間計画

横浜市広報印刷物登録第200332号 種別・分類 B-JJ110

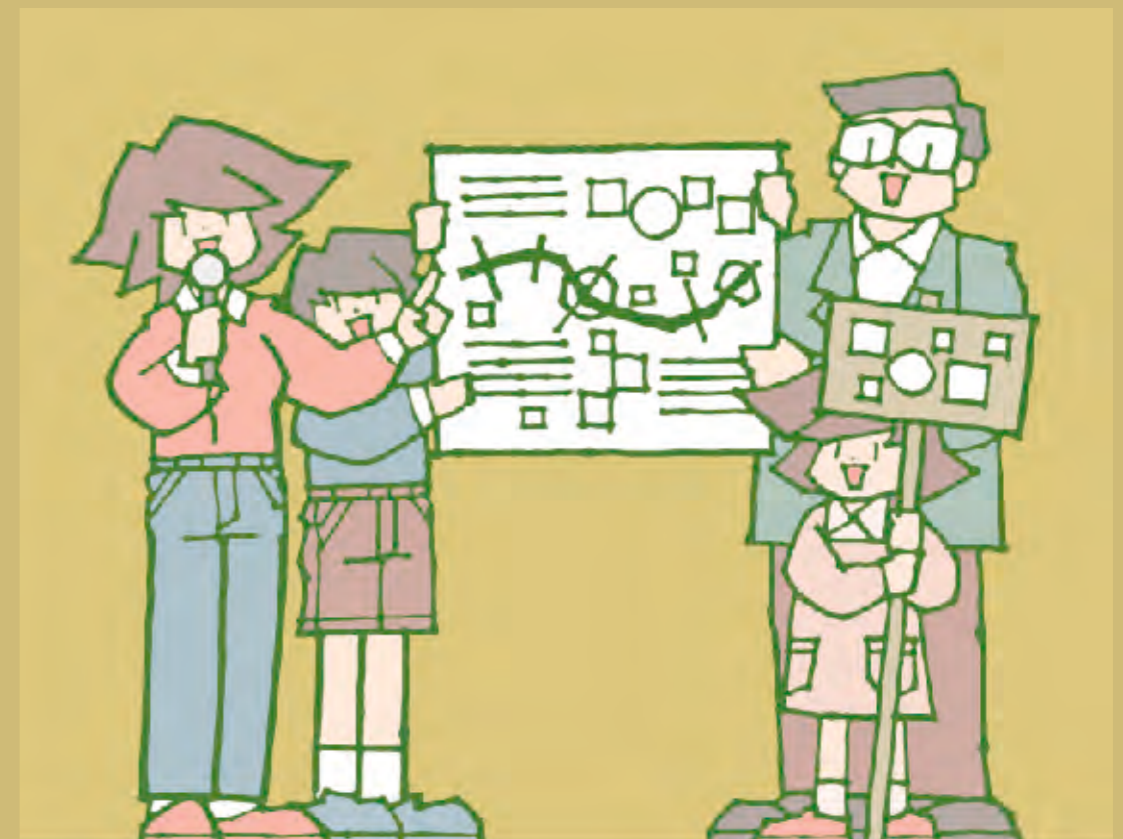
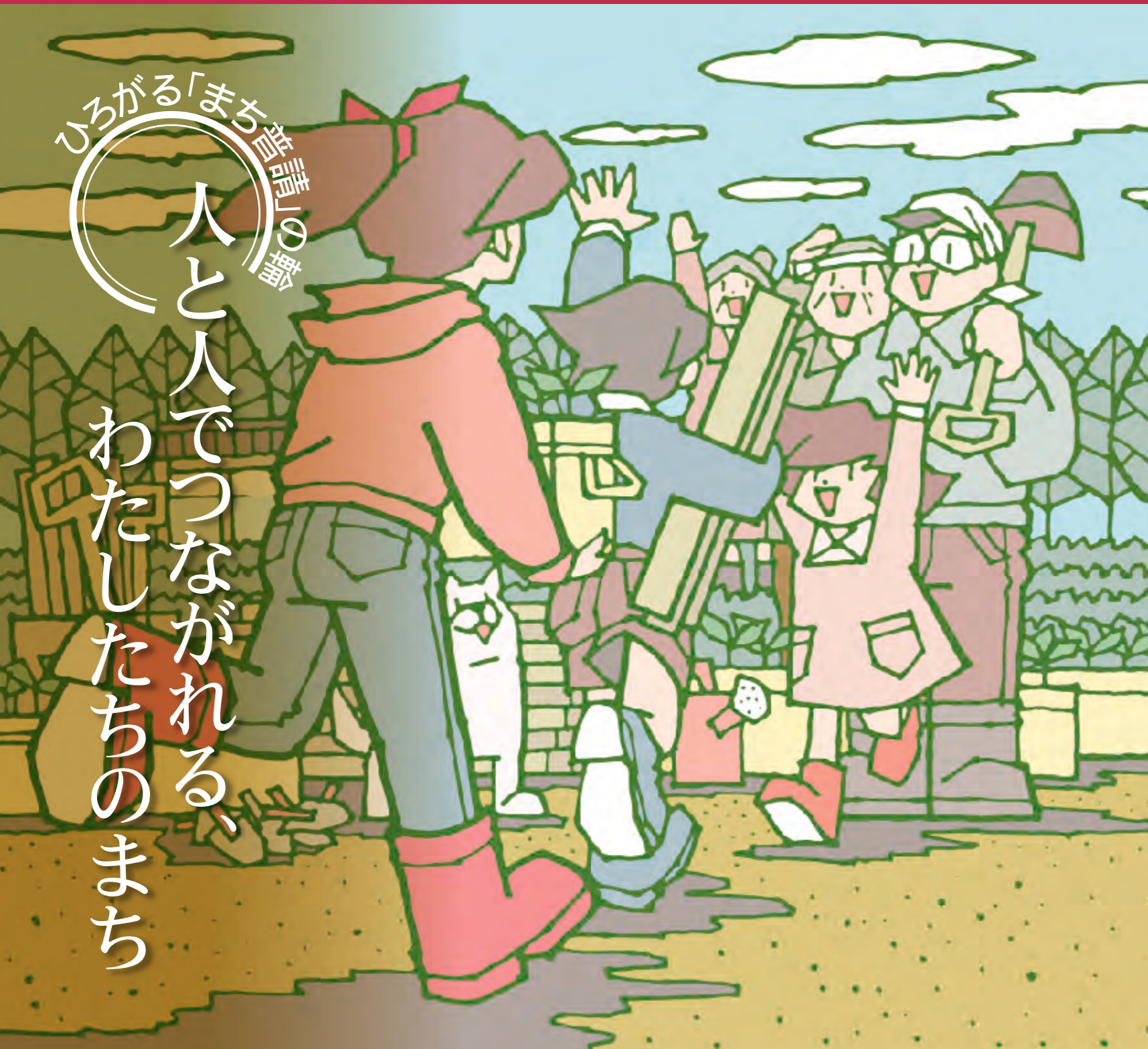


ヨコハマ人・まち
-まち人がまちをつくる-

身近なまちづくりに役立つ無料のメールマガジン「ヨコハマ人・まち」を読みませんか?
メールマガジンのご案内：<http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/chiiikimachi/hitomati/mailmn/mailmn.html>

ひろがる「まち普請」の輪

人と人でつながれる、
わたしたちのまち



1 事業のあらまし

2 地域の自然を守り、伝えていきたい
整備事例1 登り窯付属施設及び周辺環境の整備
(南区)

3 アートで彩る明るいまちづくり
整備事例2 (仮称)日ノ出町・初黄地区ライトアップ地域浄化構想
(中区)

4 防災に強いまちづくりは、人の輪づくりから
整備事例3 不便な盆地も雨水・湧き水で大変身!
(西区)

5 地域のだれもが立ち寄れる心地よい居場所
整備事例4 車椅子使用者のためのリフト設置と相談ルームの増設
(港南区)

6 遊び場づくりはまちづくり
整備事例5 地域のコミュニケーション基地「うさきちハウス」づくり
(神奈川区)



平成18年度 ヨコハマ市民まち普請事業整備提案審査委員会

- 卯月 盛夫 審査委員長 早稲田大学教授 (建築・都市デザイン)
- 木下 勇 千葉大学教授 (緑や子どもの環境デザイン)
- 嶋田 昌子 NPO法人横浜シティガイド協会理事 (まちづくりNPO)
- 名和田 是彦 法政大学教授 (公共哲学・コミュニティ論)
- 鈴木 方規 公募市民
- 野澤 千絵 東京大学先端科学技術研究センター都市環境システム分野客員研究員 (地区まちづくり)
- 平岩 千代子 お茶の水女子大学大学院客員研究員 (NPO・企業・行政のコラボレーション)
- 安田 信雄 公募市民

事業のあらまし

「ヨコハマ市民まち普請事業」は、市民の発意とアイデアによる地域の整備に関するまちづくり提案を募集し、2回に渡る公開コンテストで選考された提案に最高500万円の整備助成金を交付する事業です。この制度は、平成17年4月に横浜市地域まちづくり推進条例に基づく支援策のひとつとしてスタートし、今年で、12の整備事例を数えるに至りました。

平成18年度には20提案の応募があり、そのうち8つが1次コンテストを通過し、平成17年度の2次コンテストで今回の1次コンテスト免除となった1提案を合わせて5つが2次コンテストを通過、整備助成対象提案として選ばれ、平成19年度整備を終えました。応募から整備が完成するまでの約2年間、提案された方々の思いと地味のみなさんの「普請」への参加により、多世代間の交流や地域への愛着を育み、多くの人と人が結びついて「コミュニティ」が広がりました。

そのような身近なアイデアが形になっていくまでの経過をこの事例集にまとめ、整備の成果をご報告したいと思います。

このまち普請事業には、横浜市内の住民等3人以上であれば誰でも応募できます。是非皆さんも身近なまちの整備提案を企画し、「まち普請」を始めてみませんか。

地域の自然を守り、伝えていきたい

整備事例1 登り窯付属施設及び周辺環境の整備 (南区)



故井上良斎によって永田東の斜面地に登り窯がつけられたのは大正時代にさかのぼります。残念ながら今は使われることがありませんが、この窯場周辺には、今も湧き水が「こんこん」と尽きることなく流れ、サワガニや「ホントタンポポ」を見ることが出来ます。この豊かな自然を利用して、地域の子どもたちに「永田の自然」を実感してもらえようという親水広場を整備しようとして、「登り窯と永田の自然を守る会」のみなさんはまち普請に応募しました。高低差のある地形を利用して湧き水の流れる水路を掘り、ピオトープを造りました。また、専門家のアドバイスで水路を流れる水を循環させるポンプも設置しました。

周辺地域の方たちには計画づくりに参加してもらい、間伐材を使った遊歩道を作る時には、近隣の井土ヶ谷小学校や永田台小学校の子どもたちが大活躍してくれました。このピオトープができたことで、

登り窯を守る活動がステップアップすることができたそうです。ここ永田の豊かな自然環境を守りながら、地域の方たちが活動できる場としてもどんどん利用してもらいたいと、会のみなさんは次のまちづくりへの夢をふくらませています。



手作りのピオトープ(写真上) 湧き水はいつ枯れるかわからないので、ポンプで水を循環させるというプランにし、上と下に池もつくりました。
みんなで作業(写真中) 神奈川県藤野町から間伐材を購入し、3メートルの木材を小学生が切って遊歩道をつくりました。
豊富な湧き水が流れる水路周辺(写真下) 完成して半年も経つと、工事の跡にも自然が還ってきました。

登り窯付属施設及び周辺環境の整備 整備概要

整備主体:登り窯と永田の自然を守る会
整備場所:南区永田東
整備内容:透水管敷設、水路整備、井戸整備、貯水槽整備、管路整備
竣工時期:平成20年1月
協力:(有)河野設備工業/㈱ミナト電気商会/シブス(株)
(有)間野土建

access map



事業の流れ(平成18年度)

自ら主体となって生活環境の整備をしたい住民グループ

[4/20~26] 整備提案を募集

[H18.5/28(日)] 1次コンテスト開催

ヨコハマ市民まち普請事業整備提案審査委員会による審査 (学識経験者・まちづくり実践者・公募市民)

[2次コンテストに向けた活動]
●活動助成金として 最高20万円を交付
●専門家(NPO等)を紹介
●提案検討会の開催支援

[H18.12/10(日)] 2次コンテスト開催

住民自ら整備・維持管理を実施
整備助成金として 最高500万円を交付

アートで彩る 明るいまちづくり



整備事例2 仮称)日ノ出町・初黄地区ライトアップ地域浄化構想(中区)



中区日ノ出町・初黄地区は違法飲食店なども点在し、夜の一人歩きには不安を感じるスポットの多い街でした。そこで、ここで暮らす生活している人たちの息づかいが感じられるような安全・安心で明るいまちにしよう、地域の商店会とNPO関係者が連携し、アーティストの協力も得て、まちのシンボルとなる彫刻を設置したり店舗のシャッターにユーモア溢れるペインティングを施しライトアップするまちづくりプランを応募しました。

シャッターのペインティングは公募した20点の中から8つを選びました。商店街が閉店してから午前1時半までシャッターペイントがライトアップされるようになったので、それまでは暗い道を通って帰宅して

いた人々を明るく迎えるまちになりました。またシンボル彫刻も、公募により「お笑い大明神」という名前がつけられ、魅力ある街角が生まれました。そして整備が完成した最初の春、桜まつりの時期に日ノ出町駅前のオルガン広場にはまち普請で整備した桜の花びらの照明とともに、小学生手作りの和紙のぼんぼりが飾られ、日ノ出町の春の夜が彩られました。

NPOや商店会の方たちだけでなく、普段かわりの少なかった子どもたち、アーティストのみなさんの参加により、大きな人の輪が広がり、明るいまちづくりへの第一歩が始まりました。みなさんも日ノ出町のまちに広がる「アート」を見つけにきてみませんか。

「ありがとう」vol.2(写真右上) 作品のコンセプトは「感謝と笑顔」。人と人のつながり、笑顔のある明るい日ノ出町になりました。「野毛の鳥」(写真左上) 野毛山動物園も近くにあるので、動物がテーマとなりました。この鳥のように親子、友達が仲良くすごせるまちであるようにという願いがこめられています。「お笑い大明神」(写真左中) 全国23名の方から名称の応募がありました。日ノ出町郵便局ビル前でみなさんをお待ちしています。和紙のぼんぼりづくり(写真左下) 商店会にあるアーティストの教室が協力し、子ども達が風船のまわりに和紙を貼ってつくりました。

仮称)日ノ出町・初黄地区ライトアップ地域浄化構想 整備概要

整備主体:美しい環境・市民文化づくりの会(略:B-UPの会)
 整備場所:中区日ノ出町
 整備内容:シャッターペイント整備、シンボル彫刻整備、イルミネーション整備
 竣工時期:平成20年3月
 協力:(株)白井組/(有)江成印刷/(株)アート・ニコ/京浜電設(株)
 (有)ルナ・コレクション/ヤマギワ(株)/ピー・アイ・エス(有)

access map

防災に強いまちづくりは、人の輪づくりから

整備事例3 不便な盆地も雨水・湧き水で大変身!(西区)



西区西戸部二丁目は斜面地に囲まれた盆地で、防災上の課題を抱えていました。そのため地域の人はまち歩きや勉強会を重ね、災害時に備えたまちづくりのアイデアをまとめていきましたが、まち普請事業を知りこのアイデアを形にしようと、わくわく倶楽部を結成し応募しました。

使われなくなっていた消防団の小屋が建っていた場所には、わくわくハウスを建てました。手作りソーラーパネルを使って豊富な地下水を、ハウスの地下の貯水槽に汲み上げる仕組みを取り入れました。街角3箇所には雨水タンクを設置し、公園では雨水タンク2ヶ所と、地下タンクに溜めた雨水を手押しポンプで流すせせらぎの整備も行い、そこには、一本松小学校の子どもたちが夏休みにつくりあげた絵タイルが貼られています。ハウスのモルタル塗りやタンクの設置、せせらぎの整備などの作業には延べ1,600人の地域の人が



わくわくハウス(写真上) 湧き水が10cm溜ると、自動的にソーラーパネルの動力で動くポンプでハウスの下の貯水槽に水を汲み上げるように工夫をしました。あわせて、小さな屋根の雨水も貯水槽にしっかり取り込み、3トンの水を溜めています。

せせらぎづくり(写真中) 西戸部二丁目公園のせせらぎに、小学生たちが絵タイルを貼りました。危なくないように、浅目のせせらぎとなっています。

雨水タンク(写真下) 雨樋からの水を溜める雨水タンクを街角3箇所に自分たちで設置しました。



不便な盆地も雨水・湧き水で大変身! 整備概要

整備主体:西戸部二丁目第一自治会わくわく倶楽部
 整備場所:西区西戸部町
 整備内容:地下貯水槽設置、水路整備、まちかど広場・防災小屋整備、雨水タンク設置
 竣工時期:平成20年3月
 協力:企業組合創和設計/(株)農村・都市計画研究所
 (株)汎綜合都市研究所/(株)イセキ/(株)ゼロリ
 (有)金子ブロック工事/エバタ(株)/酒井建設(株)/(株)藍工業
 (有)エルガ/シブス(株)/(株)セーコー/(株)ゼイエンス

access map

地域の「だれもが立ち寄れる



整備事例4 車椅子使用者のためのリフト設置と相談ルームの増設 (港南区)

「さわやか港南」は、港南区日限山の閑静な住宅地の一角にあります。民家をお借りし、地域のよろず相談所として、家事のお手伝いや介助など生活のあらゆる相談のつぎまじりましたが、建物の入り口は、階段を上ったところにあり、お年寄りや障がいを持った方などにとっては気軽に立ち寄れる場所ではありませんでした。そこで、外付けのリフトで直接上がることができるよう「明るい窓辺の相談ルーム」を増設するプランでまち普請コンテストへ応募し、子どもが宿題をしたり、お年寄りが立ち寄

心地よい居場所

てお茶を飲んだり、困ったことを相談するだけでなく、いつまでもいたくなる暖かくて居心地のよい居場所ができあがりしました。完成までには、地域の方たちが相談ルームの棟上げや壁塗りにも協力。入り口の壁には、まちのふれあい活動に参加しやすくと約束をした多くの人たちの、色とりどりの「約束手形」が押されています。

この心地よい空間は、次第にあらゆる世代の方たちが訪れ、みんなの居場所となり地域情報が集まるようになりました。平成20年8月には港南区民活動支援センターのランチ(サブ拠点)に位置づけられました。まち普請事業で、ひとつの思いが形になり、お互いの活動が見えるようになったことで、地域の中で顔の見える関

係づくりが徐々にできていったようです。ここに来たら誰もが助け合おうという気持ちになる暖かな居場所が、ほかの地域へも広がっていくことが、みんなの願いでもあります。



外付けリフトが完成した「さわやか港南」の外観(写真上) 段差のある建物ですが、外付けリフトができたので誰もが立ち寄れる「居場所」ができました。
増設された明るい相談ルーム(写真中) みんなで壁塗りもしてつくりあげました。さりげなくお茶を飲みながら話すことで解決できることも多いのです。
約束手形(写真下) まちのふれあい活動に参加しますという約束手形。



車椅子使用者のためのリフト設置と相談ルームの増設 整備概要

整備主体: 在宅支援サービス さわやか港南
整備場所: 港南区日限山
整備内容: 昇降機設置、相談ルーム増設
竣工時期: 平成20年3月
協力: (有)天貝電気/(株)養鳥建設/(株)マイクロエレベーター 横手工業

access map



遊び場づくりはまちづくり

整備事例5 地域のコミュニケーション基地「うさきちハウス」づくり (神奈川区)



うさぎ山プレイパークは、プレイリーダーが常駐していて、いろいろな世代の子どもたちが自由に遊べる遊び場です。しかし急に雨が降ってくると雨宿りする場所もなく、乳幼児を連れてお母さんたちが立ち寄って休む場もなく困っていました。また、急病人やケガの対応、プレイリーダーの日々の申し送りや振り返りという事務的な機能の必要性も感じていました。そこで、誰もが立ち寄れるオープンスペースのあるハウスを実現させたいと多くの公園利用者にアイデアを出してもらい「コンペも行って提案にまともな普請に応募しましたが、惜しくも17年度は2次コンテストで次回1次コンテスト免除の扱いとなり、再挑戦となつてしまいました。公園での設置要綱に基づくと小さな建物は建てられないという問題が立ち上がったからです。その後関係者で何度も話し合いを重ね、市は新たに「プレイパーク管理棟設置要綱」を制定することになり、当初の思い通り、小さなハウスをつくることのできるようにしたことで、平成18年度の2次コンテストをみごと通過、整備対象となりました。

整備には地域の方々や子どもたちが参加。電話線を埋設する穴を掘ったり、鉄筋を組んだり、基礎作りも自分たちで行いました。初めての作業に不安なことも多かつ

たのですが、いつもみんなで話し合い、地域の方の協力を得ながら完成させました。これから、このうさきちハウスは、集いやイベントを行う場などにも活用され、地域のコミュニケーション基地として多くの人を迎えていくことしょう。



完成披露の様子(写真上) 平成20年3月23日、大勢の人が集まり、完成をお祝いしました。うさきちハウス(写真下) 右側に事務スペース。左側はデッキのオープンスペースになっていて子どもの着替えや乳幼児がお昼寝もできるようになっています。

地域のコミュニケーション基地「うさきちハウス」づくり 整備概要

整備主体: 「うさきちハウス」づくり実行委員会
整備場所: 神奈川区片倉町
整備内容: 地域のコミュニケーション基地「うさきちハウス」整備
竣工時期: 平成20年3月
協力: (有)ペンギンデザインオフィス/小泉木材(株)/(株)東陽電業社

access map

